



本会記事

■広報委員会だより

「小学生のための夏休み『自由研究』教室」 における活動報告

本学会広報委員会では、小・中学生を対象とした科学啓発行事への出展などを通して、広く一般に向けた情報発信に積極的に取り組んでいます。今回は、令和5年7月22日(土)に日本大学理工学部で開催された「小学生のための夏休み『自由研究』教室」において、本学会から出展しましたので、その詳細を報告します。

「小学生のための夏休み『自由研究』教室」は、日本大学理工学部が主催し、千代田区教育委員会の後援のもと開催されました。本イベントは、夏休みの自由研究の題材を提供し、子ども達に科学に興味を持ってもらうための科学教室で、日本大学理工学部の各学科の教職員やサークル、付属校の教職員などが講師として出展しました。2009年から毎年開催されており、本学会からの出展も恒例行事となっておりましたが、新型コロナウイルス蔓延の影響で4年ぶりの開催となりました。今回のイベントでは、5つの研究テーマと2つの演示実験のブースが提供されました。久しぶりの開催にも関わらず、143名の子どもたち(保護者も含めると総勢350名)が参加し、会場はたいへん賑わっておりました。

本学会では、「プラズマのふしぎ」と題した演示実験のブースを設けました。日本大学理工学部プラズマ理工学研究室(浅井朋彦教授)の小林大地助手、学生の皆さん

(伊藤さん、小野間さん、菊池さん、武内さん)にご協力いただき、同研究室で製作された実験装置などを展示しました。プラズマボール(写真1)や電子の比電荷測定装置(写真2)、ペーパークラフト分光器(写真3)などを使ってプラズマに関する実験を体験していただきました。多くの子ども達が楽しそうに実験装置に触れていて、プラズマについて興味を持てただけのように思います。特にプラズマボールは1番人気で、ゆらゆらと揺らめくプラズマに見惚れている子どもが多く、順番待ちになってしまうほどでした。

また、楽しい実験を体験してもらっただけでなく、広報委員会で製作したパンフレットやクイズを使った学習コーナーも設け、プラズマとその応用について知識も深めていただきました(写真4)。同パンフレットは全6シリーズあり、一般の方や小中学生向けにプラズマの基礎から核融合などの応用などについてまとめたもので、本学会ウェブサイトの広報委員会のページにて公開しております。(https://www.jspf.or.jp/koho/)

出展にあたりご協力いただきました、日本大学理工学部の事務局およびプラズマ理工学研究室の皆様へ、紙面をお借りしまして深く御礼申し上げます。

(広報委員会)



写真1 プラズマボールを体験する様子。



写真2 電子の比電荷測定装置でプラズマの性質を学ぶ様子。



写真3 ペーパークラフト分光器を使って色々な光源を分光して観察している様子。



写真4 一般・小中学生向けパンフレットを使ってプラズマや核融合について学ぶ様子。